

ZAR、流動性枯渇で乱高下か

- ◆米中通商協議再開も、中国株の重さが豪ドルの上値を抑える
- ◆RBA 議事録より要人発言に注目
- ◆トルコ情勢が新興国通貨の ZAR に影響、流動性は枯渇

予想レンジ

豪ドル円 78.00-83.00 円

南ア・ランド円 6.80-8.10 円

8月20日週の展望

豪ドルは、来週も上値は重いか。今週発表された雇用統計では、新規雇用者数は減少したが、失業率は 2012 年 12 月以来の 5.3%まで改善した。豪経済は徐々に改善傾向にあり、豪ドルを支える要因となるが、海外情勢が非常に不安定なため豪ドルの上値を抑えそう。特に米中間の貿易戦争が最大の問題だ。8 月下旬に次官級協議が再開されるが、トランプ米大統領はトルコが通貨危機に陥っているにもかかわらず、更にトルコの鉄鋼やアルミニウムに関税倍増を指示したように、米国の意向に沿わない国に対しては決して協調政策を取らない。対する中国も抵抗姿勢を見せていることで、楽観視する状況ではないだろう。為替市場では協議再開を好感したが、中国株が発表後も軟調に推移したことを考えると、引き続き貿易問題が豪ドルの重しとなりそう。来週 21 日に 8 月の豪準備銀行 (RBA) 金融政策決定理事会議事録が公表される。8 月 3 日に行われた RBA 理事会後の声明文は、目新しいものがなかったこともあり、大きなサプライズはないか。RBA 理事会後にトルコショックなどが起きたことを考えると、市場が反応するのは難しそう。22 日のデベル RBA 副総裁や 23 日のボルトン RBA 総裁補佐などの講演で、新興国通貨情勢や米中貿易問題が触れられる可能性があり注目が集まる。

南ア・ランド (ZAR) は、来週も乱高下しそうだが、上値は限定的か。今週はトルコリラ (TRY) の動きに翻弄されたが、来週も同様に TRY に連動した動きになりそう。特に来週はトルコが 21 日から 24 日まで休場となることで、市場流動性がより悪化する。南アからは 8 月 22 日に 7 月の消費者物価指数 (CPI) が発表されるが、現時点では南アの経済指標よりもトルコ情勢のほうが市場を動意づけることになると思われる。すでに日本の FX 会社もスプレッドを大きく広げているように、いずれの方向に動くとしても、新興国通貨は流動性が非常に悪いのでポジションを管理するのが難しくなるだろう。

8月13日の回顧

豪ドルの上値は重かったが、「いつて来い」の相場。TRY の暴落により、ユーロ安・ドル高に連れて、豪ドルは対ドルで弱含んだ。対円でも逃避先として円が買われたこともあり、一時 80 円を割り込んだ。中国株が弱かったことが豪ドルの重しとなったが、16 日に「中国商務次官が 8 月末に訪米して通商協議を行う」という報道が伝わると買い戻された。注目された 4-6 月期の豪賃金指数は市場予想通り前期比+0.6%、前年同期比で+2.1%だった。7 月の豪雇用統計は、失業率は 5.3%に改善したが、新規雇用者数はプラス予想がマイナスになり、まちまちな結果となった。

ZAR は週初に TRY の暴落につられ、対ドル・対円ともに 2016 年以来的の水準まで大幅に下落した。TRY と同じ新興国通貨が全面的に売られたが、個人投資家の持ち高比率も高いこともあり、ZAR の下げ幅は際立った。また今年に入り流動性が悪化していたが、今回の暴落でより流動性が枯渇した。南ア準備銀行 (SARB) は「インフレにとって主要なリスクはランド安、原油高、インフレ率を上回る賃金上昇」「2018 年の GDP 成長は緩やか、これまでの見通しより低め」と発表した。(了)